

祖父の声

久慈中 一年 仲田 有那

私の祖父は、私が生まれる前に喉頭がんと

いう病気になるに声帯をとってしまいました。

病気になる前は、しゃべるのが好きで、カラ

オケではよく歌っていたそうです。

今の声は、ロボットのよ様な機械的な声で

す。電動で振動する器械をのどにあて単純に

言葉の口型をつくることで振動させて発声し

ています。それが私の知っている祖父の声で

す。一緒に出かけたときなど、そんな祖父の

声を聞いた周りの人は、

「なんだらう？」

という目をして見ています。

父と母に聞くと、初めて聞いたときは、とて

も驚き、よく聞き取れなかつたと話していま

した。私は、祖父の声を初めて聞いたときか

ら、その声だったの、なんの抵抗もなく感

じていたの、その話をきいて逆に

「なんだらう？」

と思いましたが。

私は今まで祖父と、たくさん会話もし、た
くさんのことを教えてもらっています。周り
の人と全く同じです。

ただ、聞こえる声が機械的なだけなのです。
けれど、器械を使って簡単そうに話していま
すが、最初はなかなか話せなかつたようです。
毎日、毎日、練習して、や、とコツをつかみ
すらすらと話せるようになりました。周りの
人達と同じだと思っ
ていたけれど、知らない所

で努力はしているんだなと思いましたが。

世の中には、祖父と同じように声を失った
人や目の見えない人、耳の聞こえない人、そ
の他、体の不自由な人がいますが、その人達
は、とてもがんばり屋なのではないかと思っ
ました。

そんな人達を外見が少し違うだけで、変な
目で見る人もいますか、外見は皆、違いがあ
って当たり前前です。私達も一人ずつ顔が違っ
たり体つきが違ったりするのと同じだと思っ

ます。

違いがあるとするれば、祖父のように声が遠
たり、話すときに、器械を喉に当てて話す
ため片手がふさがってしまっているので、その時に
少し手助けが必要な時があるくらいです。

私は、障害を持つ人に対して、困って
たら自分から声をかけてみたり、手助けをし
ていきたいと思えます。

これからも祖父との会話を大切にしてい
たいと思えます。
くさん思い出をつくらせていきたいと思えます。